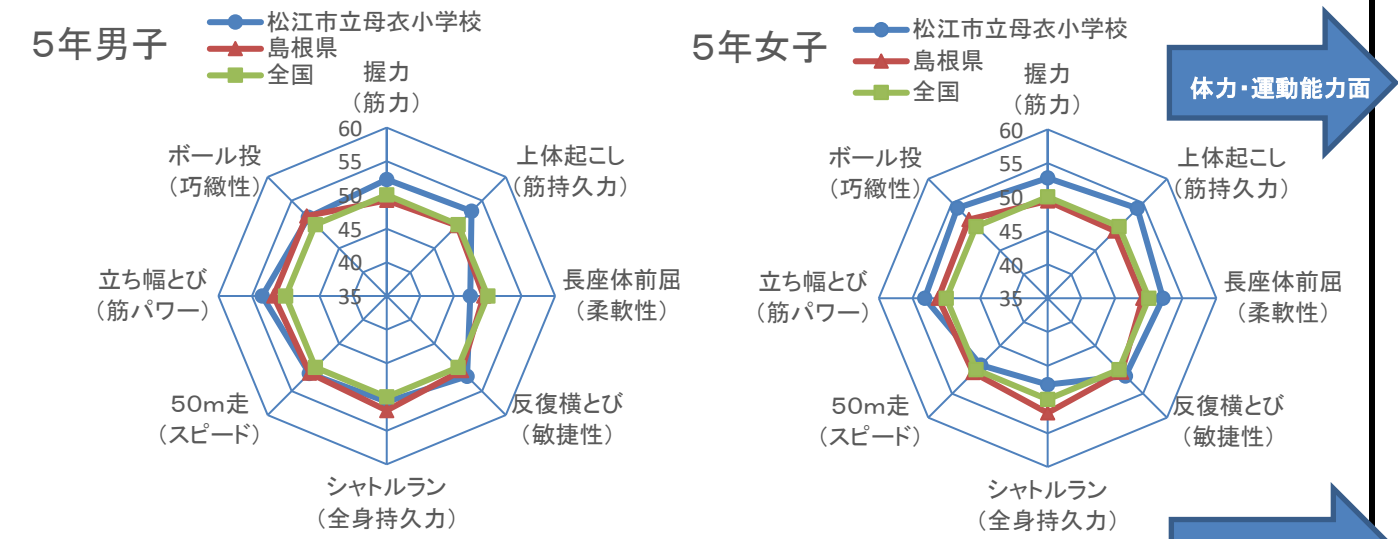
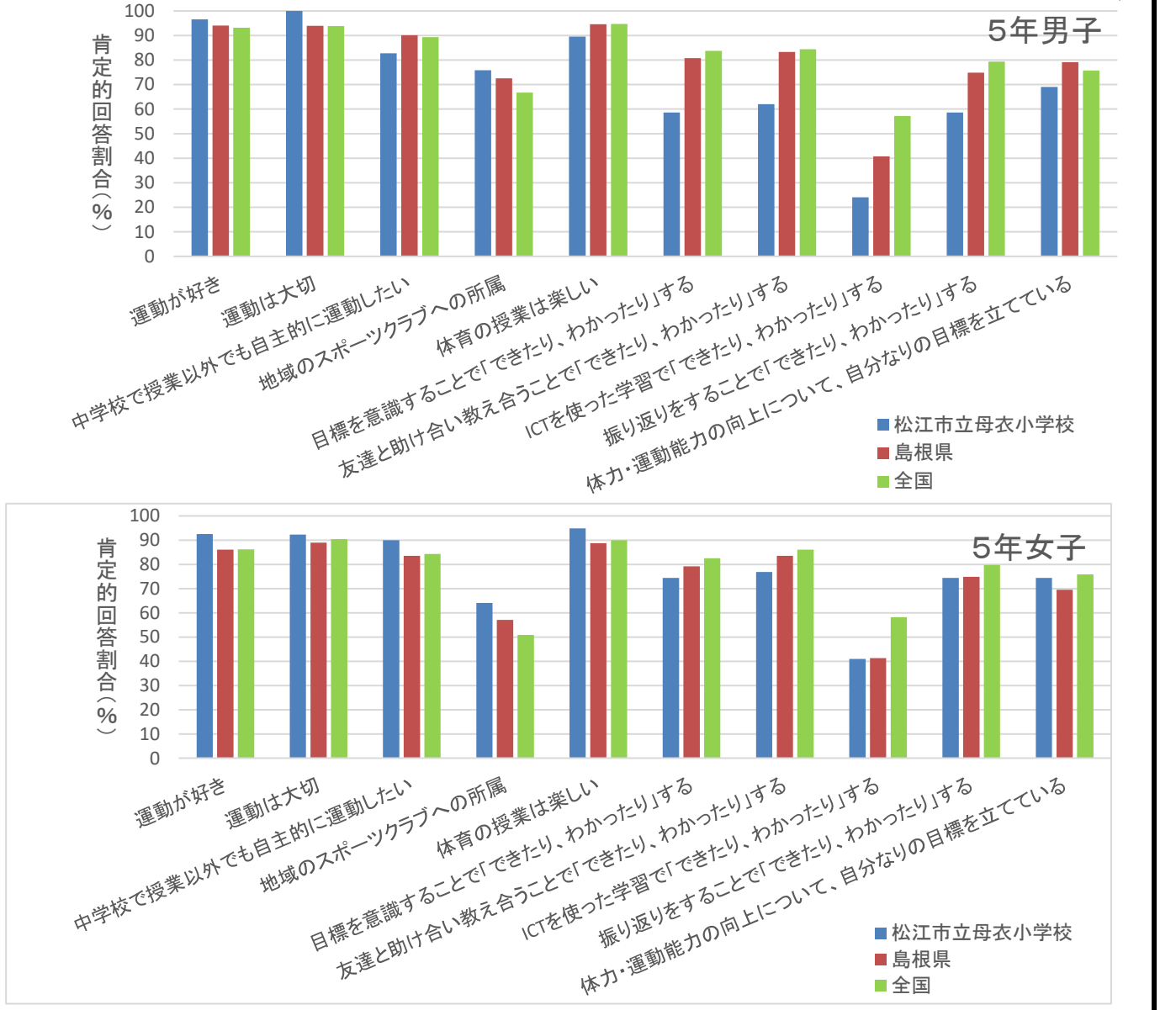


(1) 令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力 (筋力)	上体起こし (筋持久力)	長座体前屈 (柔軟性)	反復横とび (敏捷性)	シャトルラン (全身持久力)	50m走 (スピード)	立ち幅とび (筋パワー)	ボール投 (巧緻性)
男子	2.3	2.8	-2.6	1.9	0.7	1.3	3.5	1.5
女子	2.8	3.8	2.1	1.3	-2.2	-1.0	3.2	3.9

【-5p以上】 【-5~-2p】 【-2~0p】 【0~2p】 【2~5p】 【5p以上】
弱み ← → 強み

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	運動は大切	中学校で授業以外でも自主的に運動したい	地域のスポーツクラブへの所属	体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する
男子	3.4	6.2	-6.5	9.2	-5.1	-25.1	-22.4	-33.1
女子	6.3	1.9	5.7	13.2	4.9	-8.1	-9.2	-17.2
	振り返りをする ことで「できたり、わ かったり」する	体力・運動能力 の向上について、 自分なりの目標 を立てている	【-7%以上】 【-7~-3%】 【-3~0%】 【0~3%】 【3~7%】 【7%以上】 弱み ← → 強み					
男子	-20.8	-6.7						
女子	-5.4	-1.5						

(3) 令和7年度の方針【学校全体での取組】

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較から
全体的に全国平均よりも高い結果となっている。ただし、男子は長座体前屈が、女子はシャトルランが全国平均を下回っており、課題がみられる。運動に親しむ機会を補償する授業づくりとともに、ペアストレッチや柔軟性の向上につながる動きを意図的に取り入れる必要がある。また、体力をつけるためにも持久力を高める活動を取り入れていきたい。

② 意識面・全国(割合パーセント)との比較から
「目標を意識すること」、「友達と教え合うこと」、「ICTの使用」、「振り返りをする」の4項目が顕著に低い割合を示している。自己分析からのPDCAサイクルの学習を展開していくためにも、次年度からはより一層タブレットを活用したり、友達と対話する機会を補償したりすることで、自己の変容や自己の動きを修正する場面を設定していきたい。そのような活動を通して、目標の設定や具体的な取り組み方、振り返りから次の目標設定へとつなげていきたい。

令和6年度の実践から、高学年では経験していないこと、熱心に取り組んでいないこと、そのことから達成感を味わえていないことが多くある現状も大きな課題であることがわかった。1年生からの系統立てた領域ごとの指導計画を見直すこと、担当学年だけでなく、全体としての見通しをもった指導を行えるよう、教員同士も相談しながら、日々の授業に活かしていく。
また、投の動作を習得するための取り組みが弱かった。昨今の課題である投の動作を一人一人が確実に習得できるための教具や実践の紹介をするだけでなく、体育主任と学年部の先生とが一緒に実践を積み上げていく工夫を行い、学校全体で取り組んでいきたい。